



目 次

- [ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「21世紀の創造」の高校生講座が開かれる](#)
- [平成20年度 理学部物理学科 第3年次編入学学生募集について](#)
- [平成20年度 大学院理学院学生募集について](#)
- 国際会議・シンポジウム等の開催
 - [国際会議「2010年代の超対称性」を開催【理学研究院物理学部門】](#)
 - [国際シンポジウム「Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis」を開催【理学院化学専攻】](#)
- [外国人研究者受入状況\(2007.05.02～2007.07.01\)](#)
- [海外からの来訪者\(短期滞在\)\(2007.05.02～2007.07.01\)](#)
 - [韓国国立大学理学部長会御一行：理学研究院訪問](#)
- [学会賞等の受賞等](#)
- [学位授与 平成19年6月29日付け学位授与者](#)
- [人事異動〈正規職員・非正規職員〉\(H19.05.02～H19.07.01\)](#)
- [行事予定〈平成19年4月～平成19年10月〉](#)

西方上空から見た理学部全景

2002年4月28日 岡田弘氏 撮影
(付属地震火山研究観測センター教授：当時)

ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム 「21世紀の創造」の高校生講座が開かれる。

去る9月1日（土）、理学研究院を会場に、ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「21世紀の創造」の高校生講座が北海道ではじめて開かれました。

このフォーラムは、21世紀を担う若い世代に、世界の知性を代表するノーベル賞受賞者たちの生の声を直接聞く機会を提供すべく読売新聞社とNHKが主催し、第2回目の今年は、2000年にノーベル化学賞を受賞した白川英樹博士を招いて、高校生に実験を通じて科学を学ぶ楽しさを教えるべく、北海道大学で開催されたものです。

実験のテーマは「導電性プラスチックを使った透明スピーカーを作ろう！」と題し、有機溶剤を高分子フィルムに塗って導電性プラスチックを作成し、それをアンプと音楽プレーヤーにつなぐと、スピーカーのように音が出る仕組みを学ぶというものです。

講座には、21名の高校生が札幌市、苫小牧市のほか、東京都の高校からも参加があったもので、モデレーター役の理学研究院生命理学部門の古川英光准教授の司会進行により、白川英樹博士から原理の講義を受けた後、実験室で5班に分かれ、同部門のグン剣萍教授や大学院生らの補助的指導により、高分子フィルムに有機溶剤を塗る作業に取り組みました。

きちんと音を出すためのポイントは、フィルムに有機溶剤を均一に塗る必要があるため、生徒たちはOHP用紙のフィルムで何度も試作を繰り返した後に、高分子フィルムを使って導電性プラスチックを作成し、完成して音楽が流れると実験室のあちこちで喜びの声が上がりました。

最後に白川英樹博士との質疑応答で生徒から活発な質問があり、白川博士は「実験を楽しんでくれたことが一番の収穫」と話していました。



原理の講義をする白川博士



自分で作ったフィルム状
スピーカーで音楽を確認

(理学研究院・理学部)

平成20年度理学部物理学科第3年次編入学学生募集について

平成20年度物理学科編入学学生募集が次のとおり実施され、13名の出願者があった。

1. 願書受付期間：平成19年6月29日（金）～7月6日（金）
2. 入学試験日：平成19年8月10日（金）
3. 募集人員：若干名
4. 合格発表：平成19年8月30日（木）16：00頃

平成20年度大学院理学院学生募集について

平成20年度（平成19年10月入学を含む）理学院入学学生募集が次のとおり実施される。

1. 願書受付期間 : 平成19年7月13日（金）～7月19日（木）
2. 入学試験日 : 平成19年8月22日（水）～8月24日（金）
3. 合格発表 : 平成19年8月30日（木）15：30頃
4. 入学定員及び出願状況：

専攻	修士（博士前期）課程		博士後期課程	
	入学定員	出願者数	入学定員	出願者数
数 学	46	〈3〉 63	17	〈2〉 4
化 学	56	〈1〉 74	22	〈3〉 8
量 子 理 学	24	〈1〉 28	10	4
宇 宙 理 学	18	〈1〉 29	8	7
自然史科学	39	〈3〉 46	20	〈3〉 7
生 命 理 学	20	23	8	3
合 計	203	〈9〉 263	85	〈8〉 33

※ 上段〈 〉は、平成19年10月入学の出願者で外数。

国際会議・シンポジウムの開催

○“2010年代の超対象性”

2007年6月20日から22日まで、北海道大学国際交流会館と理学部において、標記国際会議が開催された。この国際会議は、質量の起源や極微な空間を探索するジュネーブのCERNにおける世界最大の加速器“LHC”実験や、宇宙のダークマターの有力候補をもつ超対称な理論の現状並びにこれからの発展を探ることを目的とした。

会議には、“LHC”に参加している高エネルギー実験物理学者、ニュートリノ研究者、標準理論を越える素粒子理論を研究している物理学者等が、国内はもとより、アメリカやヨーロッパから多数集まった。現在準備中の多くの高エネルギー実験が結果を出す2010年代に焦点をあてた本会議は、当該領域の現状を良くわからせ、また物質の質量の起源や宇宙のダークマター等の物理学の大問題にchallengeしている研究者の意気込みが伝わる興味深いものであった。（文責：石川健三）

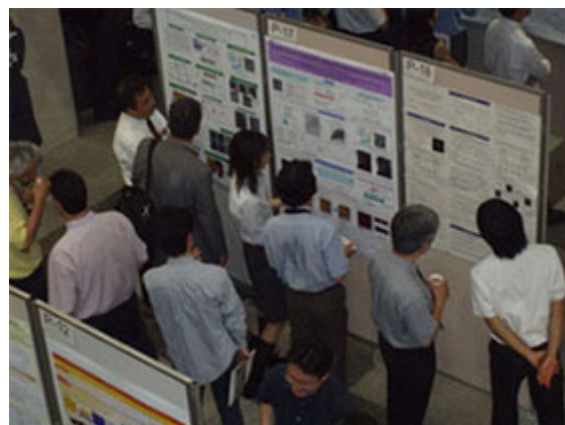


国際会議・シンポジウムの開催

○“Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis”

国際シンポジウム“Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis”（実行委員長 化学部門魚崎浩平教授、触媒化学研究センター大澤雅俊教授）が、6月22日(金)～23日(土)の2日間にわたって理学部7号館と6号館において外部からの21名(海外から14名)の講演者を招待して開催されました。本シンポジウムは、化学専攻が主体となって触媒化学研究センターと共同で企画され、理学研究院長裁量経費および化学専攻が受けている文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「高邁（こうまい）なる大志を抱いたT型化学者養成」からサポートを得て行われたものですが、グローバルCOE（GCOE）『触媒が先導する物質科学イノベーション』の採択直後であり、山口研究院長からの開会挨拶でも「GCOE発足を記念するシンポジウム」として説明されました。企業からの参加者も含め150名以上による熱心な質疑が行われ、GCOEの発足記念にふさわしい活気あふれる国際シンポジウムとなりました。

初日最初の2つの特別講演は化学総合講義Ⅱの一部として認定され、またポスターセッション(24件)で発表する化学専攻m p 学生にはショートプレゼンテーションによる英語口頭発表の機会も与えるなど、学生教育にも配慮したシンポジウム運営を行いました。また、ポスターセッションの会場で引き続き懇親会を開催したことで、参加者の交流がより深まったように思います。



外国人研究者受入状況

期間：2007年05月02日～2007年07月01日

(受入れ部門名：数学)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経費等・受入教員】
2007.07.01 -2007.08.22	フランス：University of Paris 6 Postdoctoral Fellow Giovanni Morando	研究打合せ 【JSPS(研-フ・プログラム)・本多 尚文】
2007.07.07 -2007.07.15	フランス：University of Paris 6 ATER（教育研究補助員） Prelli Luca	研究打合せ 【科学研究費補助金(神保)・本多 尚文】

(受入れ部門名：化学)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経費等・受入教員】
2006.05.01 -2007.03.18 -2008.04.30 (H20.6.10修正) 【再掲】	スウェーデン： 日本学術振興会・外国人特別研究員 Reza Dabirian Tehrani	分子内の電子伝導に及ぼす 分子内相互作用の効果に関する研究業務 【日本学術振興会事業・魚崎 浩平】

(受入れ部門名：自然史科学)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経費等・受入教員】
2007.07.01 -2007.12.31	イラン：サーフルード工科大学 准教授・Gholam Abbas KAZEMI	北海道大学大学院理学研究院 外国人研究員 【松前国際友好財団経費・角皆 潤】
2007.03.19 -2007.12.31 【再掲】	USA・Seattle. : PhD student of archaeology at the University of Washington (ワシントン大学・博士課程大学院生) James Taylor,	同位体分析をもちいたオホーツク文化 集団移動の解析に関する研究 【外国政府・研究機関及び国際機関に よる もの・総合博物館・天野 哲也】

(受入れ部門名：地震火山研究観測センター)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【経費等・受入教員】
2007.04.01 -2007.06.30 【再掲】	ノルウェー： ベルゲン大学・教授 Rolf Mjelde (ロルフ・ミエルデ)	海底地震学の研究 【北海道大学(外国人教員など) ・高波 鐵夫】

海外からの来訪者 (短期滞在)

期間：2007年05月02日～2007年07月01日

【受入れ部門名：数学】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 (受入教員)
2007.03.04 -2007.03.09 【追加報告】	アメリカ： University of Utah 准教授 Peter Trapa	研究集会 (The Northern workshop on Representation Theory of Lie Groups and Lie Algebras) への参加と講演 【私費 (研究者本人負担)・山下 博】
2007.03.05 -2007.03.10 【追加報告】	香港： Hong Kong University of Science and Technology 教授 Jing-Song Huang	研究集会 (The Northern workshop on Representation Theory of Lie Groups and Lie Algebras) への参加と講演 【科学研究費補助金・山下 博】
2007.03.06 -2007.03.09 【追加報告】	アメリカ： Oklahoma State University 教授 Leticia Barchini	研究集会 (The Northern workshop on Representation Theory of Lie Groups and Lie Algebras) への参加と講演 【科学研究費補助金・山下 博】
2007.05.20 -2007.05.27 【再掲】	アメリカ： なし (元： University of Illinois at Urbana-Champaign (UIUC)) 名誉教授 Philippe Tondeur	研究集会への参加 【私費 (研究者本人負担)・石川 剛郎】
2007.06.13 -2007.06.14	アメリカ： University of Maryland 名誉教授 James A. Yorke	数学教室談話会、複雑系セミナーでの特別講演と研究打合せ 【私費 (研究者本人負担)・由利 美智子】
2007.06.30 -2007.07.07	アメリカ： United States Naval Academy 准教授 William N. Traves	研究集会(Representation Theory, System of Differential Equations and Their Related Topics) への参加と講演 【科学研究費補助金(山下)・齋藤 睦】
2007.07.01 -2007.07.06	フランス： Universite Henri Poincare 准教授 Salem Ben Said	研究集会(Representation Theory, System of Differential Equations and Their Related Topics) への参加と講演 【科学研究費補助金・山下 博】
2007.07.01 -2007.07.07	ドイツ： Purdue University 助教 Uli Walther	研究集会(Representation Theory, System of Differential Equations and Their Related Topics) への参加と講演 【科学研究費補助金(山下)・齋藤 睦】
2007.07.01 -2007.07.07	アメリカ： Oklahoma State University 准教授 Birne Binengar	研究集会(Representation Theory, System of Differential Equations and Their Related Topics) への参加と講演 【科学研究費補助金・山下 博】
2007.07.01	香港： Hong Kong University of Science	研究集会(Representation Theory, System of

-2007.07.07	and Technology 教授 Jing-Song Huang	Differential Equations and Their Related Topics) への参加と講演 【科学研究費補助金・山下 博】
-------------	--	--

【受入れ部門名：化学】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 (受入教員)
2007.06.21- 23	アメリカ合衆国：テンプル大学 教授・Eric Borguet	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【日本学術振興会事業・魚崎 浩平】
2007.06.21- 23	アメリカ合衆国：ミズーリ・ローラ大学 教授・Jay A. Switzer	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	アメリカ合衆国：アルゴンヌ国立研究所 上級研究員・Nenad M. Markovic	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	アメリカ合衆国：イリノイ大学 教授・Andrew A. Gewirth	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	アメリカ合衆国：イリノイ大学 アーバナ・シャンペ ーン校 教授・Andrzej Wieckowski	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	アメリカ合衆国：ケース・ウェスタン・ リザーブ大学 教授・Daniel Alberto Scherson	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【日本学術振興会事業・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	アメリカ合衆国：ジョージア大学 教授・John Lewellen Stickney	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	イギリス：レスター大学 科学部長・Robert Hillman	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22-	オーストラリア：ニューサウスウェールズ	Joint Symposium on Fundamental Aspects of

23	大学 教授・Justin Gooding	Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	オランダ：ライデン大学 教授・Marc T. M. Koper	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	スペイン：アリカンテ大学 教授・Juan M. Feliu	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	スペイン：スペイン科学研究院 物理化学研究所 研究員・Angel Cuesta	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	中華人民共和国：廈門大学 副学長・Shi-Gang Sun	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	ドイツ：ボン大学 教授・Helmut Baltruschat	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.22- 23	フランス：国立科学研究センター 物性物理学研究室 第2クラス長・Philippe Allongue	Joint Symposium on Fundamental Aspects of Nanostructured Materials and Electrocatalysis での 講演 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.30	アメリカ合衆国：Argonne National Laboratory（アルゴンヌ国立 研究所） 主席研究員・Hoydoo You	研究室の視察 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.30	台湾：国立台湾大学 助理教授・陳 林祈	研究室の視察 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.30	ドイツ：German Aerospace Center （ドイツ航空宇宙センター） 教授・K. Andreas Friedrich	研究室の視察 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.30	ドイツ：Research Center Julich （ユーリヒ研究センター） 研究員・Thomas Wandlowski	研究室の視察 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】
2007.06.30	ロシア連邦：M.V.Lomonosov Moscow State University（モスク ワ大学） 教授・Galina A. Tsirlina	研究室の視察 【私費（研究者本人負担）・魚崎 浩平】

海外からの来訪者

韓国国立大学理学部長会御一行・理学研究院訪問

平成19年7月12日 韓国国立大学理学部長会一行15名が本研究院を訪れ、稲辺副研究院長、脇坂事務部長と意見交換を行った。

韓国側からは「学部・学院・研究院」の相違点、将来交流協定を締結を検討しているなど具体的な部分まで話がおよび予定時間を大幅に越えた熱のこもった意見交換が行われた。



(一行 15名を紹介する韓国代表者)



(韓国側と対応の稲辺副研究院長・
脇坂事務部長)



旧理学部本館前で集合記念撮影

学会賞等の受賞等

北海道大学 名誉教授 長田 義仁 氏（元大学院理学研究院 生命理学部門）は、「機能性ゲルの創製と物性に関する研究」（Syntheses and Characterization of Functional Gels）により、2007年5月29日、社団法人 高分子学会から「平成18年度高分子科学功績賞」を受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科 化学専攻 博士後期課程3年（分析化学研究室） 作田 絵里 さんは、「ホウ素を架橋コアとした分子系の創製とその光機能性の解明」により、日本ロレアルから「2007年度 第2回「ロレアル－ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」」を受賞され、2007年7月13日（金）日本工業倶楽部会館において授賞式が開催されました。

「ロレアル－ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」は、日本ロレアルが2005年11月に、日本ユネスコ国内委員会との協力のもと、日本の若手女性研究者が、国内の教育・研究機関で研究活動を継続できるよう奨励することを目的に創設されたもので、対象者は、物質科学、生命科学の分野で、博士課程（後期課程）または、博士課程に進学する予定の女性科学者で、受賞者には、それぞれ賞状と奨学金100万円が送られました。

作田さんの授賞した研究内容は、次のとおりです。

〈研究内容〉「ホウ素を架橋コアとした分子系の創製とその光機能性の解明」

ホウ素原子は、周期表上において、炭素や窒素と並んで表記される原子である。

これらの原子はそれぞれ電子数が異なり、特にホウ素原子を持つ化合物は他の元素には無い特徴的な電子構造をとる。こうした理由から、近年、ホウ素原子を含む様々な化合物の合成が行われており、特に、ホウ素原子を有する有機化合物は電子材料や発光材料への応用が期待されている。しかしながら一方では、基礎化学的な研究はあまり行われていないのが現状である。

本研究では、このようなホウ素原子の性質を利用する事ができる様々な化合物を合成し、ホウ素原子上の電子の役割に注目しながら、その光機能性（外部刺激によって発光するメカニズム・構造）に関する基礎研究を行っている。

ホウ素原子を有する化合物は電子を受け取りやすい性質があるため、例えば、電気をそのまま発光へと変換するELディスプレイのための発光素子や発光型センサーとして役立つと期待されている。

（＊架橋とは分子同士を結合する部分を指す。）

また、作田さんは、今回の授賞にあたり、次のように述べています。

今回、このような大変大きな賞を頂く事ができ、光栄に思います。

このような賞を受賞できましたのも、これまで私の研究活動を支えてくださいました多くの方々のおかげだと思っています。

現在、行っている学部4年から続けてきたホウ素原子を用いた化合物の研究成果は、現状に留まらず、自ら国内外の大学や企業との共同研究を積極的に行うなど、研究活動の幅をさらに広げていきたいで

す。

女性という枠に囚われず、自分の信念を貫き、分野が偏ることなく広い視野をもちながら、国際的にも活躍できる研究者になりたいと考えています。

(写真：授賞式の様子) 左から4番目が作田絵里さん



学位授与

平成19年6月29日付け学位授与者（3名）
（課程博士）

山内 雄介（数学専攻）

Global Existence and Nonexistence of Solutions for a Reaction-Diffusion System
（反応拡散方程式系における時間大域解の存在・非存在について）

主査 准教授 津田谷公利

道 貴之（化学専攻）

ルテニウム三核錯体単分子膜および多層膜の金基板上での構築

主査 教授 魚崎 浩平

長谷川 健（地球惑星科学専攻）

Geological and Petrological Study of Caldera-forming Eruptions of Akan Volcano,
Eastern Hokkaido, Japan: Formation Processes and Structure of Composite Caldera
（北海道東部、阿寒火山におけるカルデラ形成噴火の地質学的および岩石学的研究：
複合カルデラの形成過程と構造）

主査 教授 中川 光弘

人事異動

対象期間：平成19年5月2日～平成19年7月1日

<正規職員>

平成19年6月1日付け発令

(昇任)

数学部門数学分野准教授
同分野講師から

古 畑 仁

数学部門数学分野准教授
同分野講師から

秦泉寺 雅 夫

平成19年6月30日付け発令

(辞職)

外部資金担当

斎 藤 由夏梨

平成19年7月1日付け発令

(採用)

自然史科学部門地球惑星システム科学分野助教
任期：H19.7.1～H24.3.31

伊 藤 正 一

(転入)

外部資金担当
財務部主計課予算分析担当から

佐 藤 こころ

<非常勤職員>

平成19年6月1日付け発令

(採用)

数学部門学術研究員

伊 澤 毅

(配置換)

物理学部門特任助教
同部門博士研究員から

須 田 拓 馬

平成19年6月4日付け発令

(採用)

数学C O E 学術研究員

フンソック カン

平成19年 6月 8日付け発令

(辞職)

外部資金担当事務補佐員

大 槻 香 織

平成19年 6月11日付け発令

(配置換)

外部資金担当事務補佐員

同担当事務補助員から

橋 場 し の ぶ

平成19年 6月15日付け発令

(辞職)

数学C O E 事務補佐員

練 生 川 明 子

平成19年 6月16日付け発令

(採用)

数学C O E 学術研究員

三 鍋 聡 司

平成19年 6月18日付け発令

(採用)

数学C O E 事務補佐員

太 田 展 子

平成19年 6月30日付け発令

(辞職)

自然史科学部門特任助手

伊 藤 正 一

平成19年 7月 1日付け発令

(採用)

研究協力担当事務補佐員

川 端 さ ほ

(辞職)

研究協力担当事務補佐員

羽 藤 清 美

行事予定

〈平成19年4月～平成19年10月〉

月	日	曜	事 項
4	2	月	大学院理学院入学式，学部新入生健康診断（理学部は午後指定，全学5日まで）
	4	水	大学院・学部専門科目（理学部共通科目を除く）授業開始
	5	木	新入生オリエンテーション及び理学部ガイダンス
	6	金	北海道大学入学式，学位申請（4月付託）締切
	9	月	全学教育部教育情報システム利用ガイダンス・履修ガイダンス（理学部新入生）
	10	火	全学教育科目・理学部共通科目第1学期授業開始
	12	木	卒業・修了年次学生・研究生健康診断（午前：理学部，午後：大学院理学院等）
	18	水	学部生（平成17年度以前入学者）履修届受付【～19日（木）】 学部生（平成18年度以降入学者）履修届Web入力【～24日（火）】
	19	木	大学院新入生健康診断（午後：理学院）
	23	月	在学生（卒業・修了年次を除く）健康診断（午前：理学部，午後：大学院理学院等）
5	10	木	北海道・東北地区国立大学法人理学部長会議【～11日（金）】【本学部当番校】
	11	金	6月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	18	金	学位申請（5月付託）締切
6	7	木	開学記念行事日，大学祭【～10日（日）】【7日（木）・8日（金）休講】
	上旬		A O入試学生募集要項配布開始
	29	金	学位記授与式，学位申請（7月付託）締切 大学院入試出願資格予備審査申請期間【～7月2日（月）】
7	12	木	大学院入試出願資格予備審査結果通知
	13	金	大学院理学院修士（博士前期）課程及び博士後期課程入学願書受付【～19日（木）】
	17	火	全学教育科目補講日【～18日（水）及び24日（火）～25日（水）】
	30	月	全学教育科目・理学部専門科目・理学院第1学期授業終了
	31	火	全学教育科目定期試験【～8月10日（金）】 理学院・理学部（専門科目）夏季休業【～9月21日（金）】
8	5	日	北海道大学オープンキャンパス
	6	月	理学部体験入学【～7日（火）】
	10	金	理学部（物理学科）編入学試験，9月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	13	月	全学教育科目第1学期追試験【～15日（水）】，全学教育部夏季休業【～9月28日（金）】
	17	金	学位申請（8月付託）締切，研究生・聴講生・科目等履修生入学願書受付【～23日（木）】
	22	水	大学院理学院修士（博士前期）課程及び博士後期課程入学試験【～24日（金）】
	30	木	編入学試験・大学院入試合格者発表，非正規生入学許可通知
9	中～下旬		学科等分属手続き（平成18年度以降入学者のみ対象）
	25	火	学位記授与式，大学院・学部専門科目補講・集中講義期間【～28日（金）】
	28	金	学部1年次学修簿配付
10	1	月	全学教育科目・学部専門科目・大学院理学院授業開始
	5	金	学位申請（10月付託）締切
	10	水	学部生（平成17年度以前入学者）履修届受付【～11日（木）】 学部生（平成18年度以降入学者）履修届Web入力【～16日（火）】
	11	木	A O入試出願受付期間【～18日（木）17：15必着】
	15	月	大学院履修届受付【～18日（木）】